

令和元年11月9日土曜 午前9時～午前11時

姫路市「夢プラン・歴史ウォーク」(津田校区)

「加茂町・思案橋町」を巡る歴史ウォーク

行程

津田公民館～妙善寺～加茂明神社～榊塚～津田尋常小学校跡地～加茂地藏～思案橋・菅公座像～津田天満宮

講師

大村良雄氏 (歴史博物館友の会員)

主催

津田連合自治会



津田校区の各町から100名程度の参加者が集まりました。
姫路市の夢プラン事業の恒例行事「歴史ウォーク」の始まりです。



津田公民館の一角に蓼野（たでの）町の地名の由来が掲示してあります。

「名のみにて 知る人まれになりけり 津田の穂蓼の生えるところを」



公民館東には津田英賀保周辺の史跡案内板があります。

また、岡田線工事の際に発掘された加茂遺跡についても掲示してあります。



一通りの解説を聞いて公民館を後にし加茂に向かいます。

100人ウォークの始まりです。安全確保のために消防団が協力してくれました。





加茂の妙善寺です。

本堂を開放していただき、お話を伺いました。

手水屋にはかつての鬼瓦が据えてあります。上部の筒状のデザインは巻物を表しており、仏教の経典がもとになっているそうです。





阿吽の狛犬や仁王様はサンスクリッド語の始まりと終わりの音が「あ」と「ん」であることから全ての始まりと終わりを表現しているなど、様々なお話をしていただきました。



屋根の上の獅子も阿吽の口でした。
ちなみに姫路城大天守の11匹の鯨はすべて口を閉じているそうです。



次に向かったのが加茂明神社です。

赤松満祐が山城国岡田の加茂明神を町坪へ勧進し、永享4年（1432年）の大洪水で流されて現在地へ遷されているそうです。豊作・天候・健康の神と伝えられています。

加茂公民館を東に入ると榊塚があります。菅公が加茂明神を参詣した後、出発前に榊の木で作った杖を地面に突き刺したのから青々とした葉が茂ったといわれているそうです。

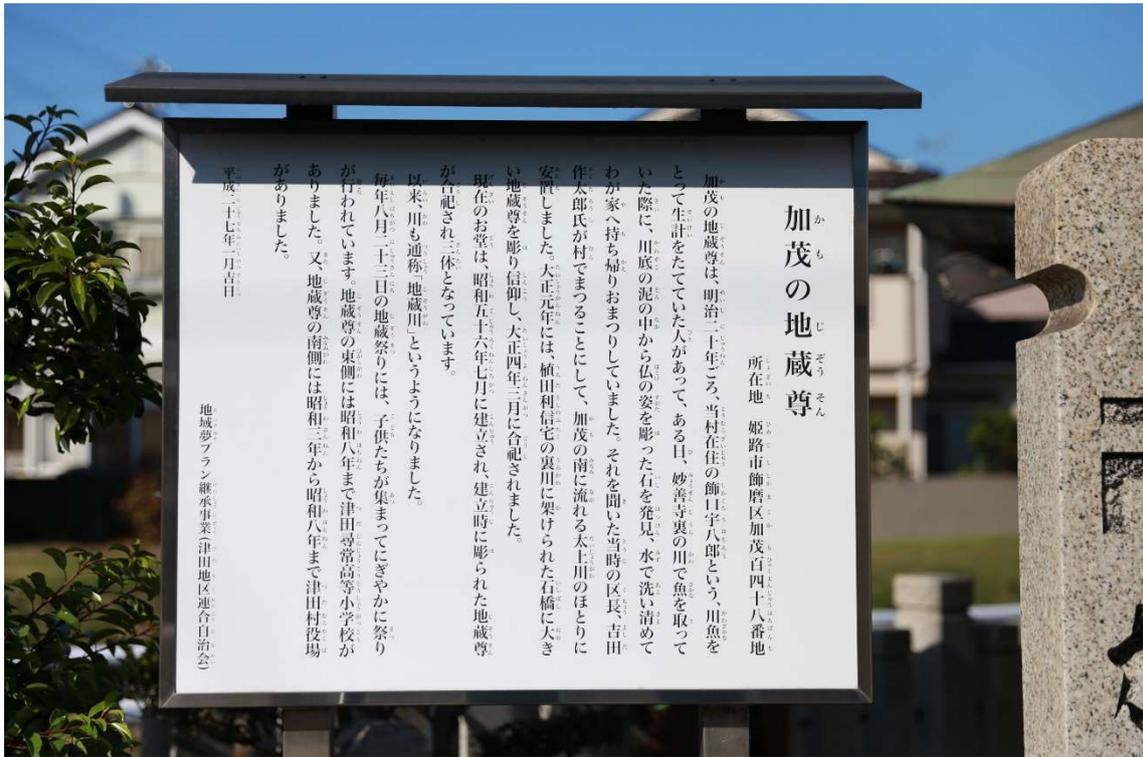




今も利用されている古井戸は、もともと津田尋常高等小学校のあった場所です。
とても小さな学校だったようです。



加茂の地蔵尊です。
川の中の石を起こしてみると、地蔵が彫られていたと伝えられているそうです。



加茂の地藏尊

所在地 姫路市飾磨区加茂百四十八番地

加茂の地藏尊は、明治二十年ごろ、当村在住の師口宇八郎という、川魚をとって生計をたてていた人があつて、ある日、妙善寺裏の川で魚を取っていた際に、川底の泥の中から仏の姿を彫つた石を発見、水で洗い清めてわが家へ持ち帰りおまつりして置きました。それを聞いた当時の区長、吉田作太郎氏が村でまつることにして、加茂の南に流れる太土川のほとりに安置しました。大正元年には、植田利信宅の裏川に架けられた石橋に大きい地藏尊を彫り信仰し、大正四年三月に合祀されました。

現在のお堂は、昭和五十六年七月に建立され、建立時に彫られた地藏尊が合祀され一体となっています。

由来、川も通称「地藏川」というようになりました。

毎年八月二十三日の地藏祭りには、子供たちが集まってにぎやかに祭りが行われています。地藏尊の東側には昭和八年まで津田常高高等小学校がありました。又、地藏尊の南側には昭和三年から昭和八年まで津田村役場がありました。

平成二十七年二月吉日

地蔵夢プラン継承事業 津田地区連合自治会

夢プラン事業の立て札に詳しい案内がありました。



菅公座像を見学して、思案橋を見に行きます。

思案橋という名前ですが、かかっているのは細江。

二つの表記がしてあることを教えていただきました。



最後は津田神社へ。

新設された津田の祭り史掲示板で各町の屋台の変遷を見つつ、宮司さんの計らいで絵巻の中巻と下巻を公開していただきました。

